

# 日本民俗学会 第75回年会 東京

## 第1回 サーキュラー

日本民俗学会第75回年会を下記の要領で開催いたします。本年は東京都世田谷区の成城大学が会場となります。昨年度の熊本年会に引き続いて、感染対策を十二分に考慮しながら対面の年会を行います。キャンパスでの懇親会も行います。

そして、成城大学の民俗学研究所が今年50周年を迎えるとうかがいました。そんな記念すべき年を迎えた成城大学を会場に、本学会が年会を行えることは何よりも喜ばしいことと思います。今年は年会全体のテーマは設けません。シンポジウムは「民俗学でつながる、民俗学をつなげる」です。研究発表につきましては、多様なテーマによるご発表を歓迎いたします。

充実した年会をめざします。皆様奮ってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

一般社団法人日本民俗学会 第34期会長 大石泰夫

主催 一般社団法人 日本民俗学会

協力 成城大学

期日 2023年10月21日(土)・22日(日)

会場 成城大学 (東京都世田谷区成城6丁目1番20号)

※ 新型コロナウイルス感染症については、政府の「基本的対処方針に基づく対応」(<https://corona.go.jp/emergency/>)に則した感染防止策を講じます。具体的な対策については今後のお知らせ等で示します。なお、開催当日までの感染状況に応じて、開催方法等が変更となる場合があります。

※ 実行委員会では宿泊等の斡旋は行いません。

## 1. 会場アクセス

小田急線成城学園前駅から徒歩で4分。

(急行は停車しますが、快速急行は停車しません)



※ 会場の所在、アクセスに関しては成城大学ウェブサイトもご参照ください。

<https://www.seijo.ac.jp/access/>

## 2. 年会実行委員会事務局

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20

成城大学文芸学部 小島孝夫研究室気付

日本民俗学会第75回年会実行委員会事務局

e-mail: minzokugaku75@gmail.com

※ お問い合わせは e-mail をご利用ください。

## 3. プログラム

### 10月21日(土) 公開シンポジウム・授賞式・総会・懇親会

12:00～ 受付開始 (3号館1階エントランス)

13:00～16:00 公開シンポジウム (3号館地下1階003教室)

「民俗学でつながる、民俗学をつなげる

ーフィールドワークのこれからを考えるー」

16:10～17:50 研究奨励賞授賞式、会員総会

18:00～20:00 懇親会 (本部棟1階学生食堂)

### 10月22日(日) 研究発表

9:00～ 受付開始

9:30～12:00 研究発表  
12:00～13:00 休憩  
13:00～17:00 研究発表

- ※ 今後の状況の変化により、プログラム内容が変更となる場合があります。
- ※ 開始・終了時刻はいずれも現時点での予定です。発表プログラムは9月中旬に参加等申込者に送付する予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。
- ※ 今年度の年会は、プレシンポジウムおよび見学会を企画しておりません。

#### 4. 参加・発表申し込み

- 参加・発表を希望される方は、オンラインフォームか葉書のいずれかでお申し込みください。運営の効率化のため、できるかぎりオンライン申し込みフォームをご利用くださいますよう、ご協力お願い申し上げます。
- オンラインフォームは第75回年会ウェブサイト (<https://www.nenkai75.fsnet.jp>) のリンクを使用するか、右下のQRコードよりアクセスしてください。
- オンラインでの申し込みは **2023年7月3日(月) 23:30** までに完了してください。
- 葉書による申し込みの場合、同封の葉書に必要事項を記入し、切手を貼ってご投函ください。 **2023年7月3日(月) 必着**とします。
- 所属の記載方法については日本民俗学会ホームページの「定款・規程等」に掲載の「一般社団法人日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明」 ([https://www.fsnet.jp/information/regulations/diversity\\_2014-0713.html](https://www.fsnet.jp/information/regulations/diversity_2014-0713.html)) をご参照ください。
- 出張依頼状が必要な方は所定欄にチェックの上、必要事項をお知らせください。
- 託児室・託児費用補助の利用を希望する場合には、「8. 託児室・託児費用補助の申し込み」をお読みいただき、オンラインフォームもしくは葉書でお申し込みください。
- 参加申し込み用の葉書には、住所変更通知など年会に関わらない連絡事項の記載は控えください。
- お送りいただいた個人情報は、第75回年会に関わる事務にのみ使用し、終了後は適時廃棄いたします。
- 第2回目以降のサーキュラーは、今回参加申し込みをされた方のみにお送りいたします。なお電子版のサーキュラーは年会ウェブサイトにも掲載します。



参加申し込みフォーム

## 5. 参加費

年会参加費	前払い	当日
会員（一般）	3,000 円	4,000 円
会員（学生）	1,000 円	2,000 円
非会員（一般）	————	4,000 円（当日受付のみ）
非会員（学生）	————	2,000 円（当日受付のみ）

### 懇親会参加費

会員（一般）	5,000 円	6,000 円
会員（学生）	2,000 円	3,000 円
非会員（一般）	————	6,000 円（当日受付のみ）
非会員（学生）	————	3,000 円（当日受付のみ）

10月22日（日）弁当代 1,000 円 ————（当日販売なし）

- 会場の成城大学近辺にはコンビニエンスストア、スーパー、飲食店がございます。
- 大学内の学生食堂は両日とも休業しております。
- 年会参加費・懇親会参加費・22日弁当代ともに、納入期限は8月31日（木）です。期日にて振り込み口座を閉鎖いたしますので、それ以降は年会当日に当日料金でお支払いください。ただし納入期限までに弁当代のお支払いがされない場合、注文はキャンセルとなります。
- 一度納入いただいた参加費等はいかなる理由があっても返却いたしません。ご了承ください。
- 納入方法は、7月中旬に参加等申込者に送付する予定の第2回サーキュラーにてお知らせいたします。

## 6. 研究発表様式

### 一般発表

- 発表20分・質疑応答5分・移動5分を1ユニットとします。
- 一般発表を行う方は、オンラインフォームもしくは参加申し込み葉書にてお申し込みください。
- 発表内容は未発表のものに限ります。
- 備え付けの機材はPC用プロジェクターとPC（Windows）です。機材の使用を希望される方はオンラインフォームもしくは葉書の所定欄にチェックしてください。
- 発表会場のプロジェクターはHDMI接続です。持ち込みPC等を使用される方は、接続に必要なアダプター等は各自でご用意ください。
- 発表は日本語でお願いします。

## グループ発表

- 統一テーマのもとで4名以上の発表者からなるグループ発表を受け付けます。うち1名をグループ発表の代表者としてください。
- グループ発表の場合は代表者だけでなく、その他の発表者も「研究発表申し込み」を行っていただく必要があります。コメンテーターをつける場合にも、プログラムに記載する必要から、グループの一員として申し込んでいただく必要があります。
- グループ発表の時間枠は120分となります。枠内の時間配分は代表者にお任せいたします。
- グループ発表には適宜司会を設定していただくことができます。司会の登録は必要ございませんが、プログラムへの記載もいたしません。なお、学会側からの座長の配置はいたしません。
- グループ発表で使用できる機材は一般発表に準じます。

※ 個人発表とグループ発表、両方での発表はできません。

※ 発表時間帯の指定はできません。

※ 要旨集は電子版（PDF ファイル）での公開となります。印刷版をご希望の方は、別に1部1,500円で頒布いたしますので、オンラインフォームもしくは葉書の所定欄にチェックしてください。お申し込みいただいた方には、当日受付にてお渡しいたします。郵送等の対応はいたしませんのでご了解ください。

## 7. 発表資格

- 第75回年会における発表資格条件は、2023年5月末日時点で2023年度の会費を納入済みの会員および名誉会員です。なお新入会員については、2023年5月14日開催の理事会で入会を承認されている必要があります。
- 期限（8月31日（木））までに年会参加費の納入および発表要旨の提出がない場合、発表は自動的にキャンセルとなりますので十分ご注意ください。

## 8. 託児室・託児費用補助の申し込み

- 会場には有料の託児室を設置する予定です。また、年会に参加する会員が自宅近くの託児所やベビーシッターを利用する場合にも、その費用の一部を補助します。
- 補助の対象とする託児先は、託児の人数・日付・時間・預け先事業者と連絡先・支払い額が明記された利用明細を提出できることが条件となります。補助金額の割合や上限については、会場託児室の料金設定とあわせて検討中です。補助の支払いは、年会終了後かつ大会実行委員による利用明細の確認後となります。

- 会場託児室またはその他の託児サービスの利用を希望される会員は、料金や補助金の設定の参考としますので、年会参加申し込み時にオンラインフォームもしくは葉書の所定欄にチェックして事前登録をお願いします。ご回答をいただいた方には、後日、大会実行委員より利用日や子どもの人数・年齢等について問い合わせをさせていただきます。具体的な登録方法や料金および補助金額は、第2回サーキュラーにてお知らせいたします。

## 9. 書籍販売・頒布の申し込み

- 会員および出版社の方が会場で書籍の販売および頒布を希望される場合、7月上旬までに年会ウェブサイトにて申し込み方法を掲載しますので、そちらからお申し込みください。申し込み期限は8月31日（木）の予定です。

## 10. 今後の日程

オンライン申し込み期限	7月3日（月）	23:30
葉書での申し込み期限	7月3日（月）	必着
第2回サーキュラー	7月中旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）	
	内容：参加費納入方法、その他年会参加に関する連絡事項、発表要旨の提出方法、発表要領、託児所の利用について、書籍販売・頒布申し込み要領、出張依頼状（希望者のみ）	
参加費納入期限	8月31日（木）	これ以降は当日料金になります。
発表要旨提出期限	8月31日（木）	
書籍販売申し込み期限	8月31日（木）	
第3回サーキュラー	9月中旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）	
	内容：会場案内、発表要領、各発表プログラム	

## 公開シンポジウム

### 民俗学でつながる、民俗学をつなげる ーフィールドワークのこれからを考えるー

#### 主旨

日本民俗学会の前身である民間伝承の会の機関誌『民間伝承』第4号（1935）の巻頭言で宮本常一は、「この学問の面白さは読者が同時に実践者たり得る所である」と述べている。この巻頭言のタイトルは「採集者の養成」なので、ここでいわれている「実践」とは、民俗採集であることがわかるだろう。そして、その成果を発信する『民間伝承』誌は、全国の民俗学者のネットワークを形成するプラットフォームに成長していった。

それから90年近い時を経た現在、民間伝承の会は日本民俗学会に名称を変え、民俗採集よりもフィールドワークという言葉の方が、私たちにとって馴染み深いものとなっている。この「民俗採集からフィールドワークへ」という変化は、自然物の標本採集のように「民俗」の採集を目指す調査から、より広い関心に基づく調査が行われるようになったことを示しているといえるだろう。しかし、それは過去に共有されていた斯学の対象と目的を拡散させるものでもあり、フィールドワークも「人それぞれ」のものにしてしまう側面があった点は否めない。さらに現在の民俗学は、調査研究の場もフィールドワークの主体も多様性を増しており、本会の会員は大学、地方学会、博物館、行政機関など多様な組織で、様々な目的のもと、フィールドワークの経験を積んできたと思われる。

このような現状認識のもと、本シンポジウムではいま一度、民俗学のフィールドワークは何のために行うものなのか、そしてそれが何を生み出すのかということを考えてみたい。フィールドワークの主目的が、そこに行かなければ得られない情報を得ることであることは論を俟たないが、近年の様々な研究成果を鑑みるに、フィールドワークにはそれだけに留まらない可能性があるように感じられる。例えば、フィールドで出会った人々と民俗学者が協働して地域活性化に関わる活動を行ったり、最初は観察対象でしかなかった祭礼や芸能に自ら参加したりして、そこで得た経験を記述するといった例は、単なる情報収集の枠に留まらないものとして位置づけられる。すなわちフィールドワークは私たちと社会をつなげるものであり、それがより深いレベルの研究に接続される可能性を持つものとして捉えることが可能なのである。

このようなフィールドワークの可能性を考えるにあたって、本シンポジウムでは、長年にわたり精力的なフィールドワークを続けている3名の会員をパネリストに指名し、その実践に学びながら、これからのフィールドワークのあり方について考えたい。登壇者は、それぞれ活動する地域も専門も異なっているが、フィールドワークをとおして人と社会につながり、その成果を学界内外に発信し続けている点は共通している。今回は、これからの民俗学を担う若い世代の会員にも、民俗学のフィールドワークに対する理解を深めてもらう、すなわち「民俗学をつなげる」ことも意識しつつ、今後の民俗学がどのように人、あるいは社会とつながっていけばよいかということを議論したい。

（文責・加藤秀雄）

コーディネーター： 加藤秀雄（滋賀県/滋賀県立琵琶湖博物館学芸員）  
塚原伸治（東京都/東京大学准教授）

パネラー1： 川島秀一（福島県/前日本民俗学会会長）  
報告タイトル：五感から学ぶ漁船操業－フィールドワークのひとつの可能性－

パネラー2： 市川秀之（滋賀県/滋賀県立大学教授）  
報告タイトル：フィールドワーク教育を通じた地域社会とのつながり

パネラー3： 越智郁乃（宮城県/東北大学准教授）  
報告タイトル：二つのミンゾクガク（民俗学/民族学）的フィールドワークの交錯

コメンテーター1： 内山大介（栃木県/淑徳大学教授）

コメンテーター2： 松岡薫（奈良県/天理大学講師）